

果樹病虫害発生状況（4月中旬）

令和7年4月18日

福島県病虫害防除所

ナシ黒星病・リンゴ黒星病の子のう胞子の飛散が確認されています。各樹種の生育に合わせて防除を徹底しましょう。

【モモ】

1 モモせん孔細菌病

4月上旬の巡回調査（県北地方、品種「あかつき」）において、春型枝病斑の発生は確認されませんでした。なお、果樹研究所の「ゆうぞら」において、4月2日に春型枝病斑の初発生が確認されています。本病は、発生初期の密度抑制が重要なため、定期的にはほ場を巡回し、病斑の早期発見と発病枝のせん除を徹底し、春型枝病斑からの感染防止を図りましょう。

【ナシ】

1 ナシ黒星病

果樹研究所における子のう胞子飛散状況調査の結果、4月3日に初飛散が確認され、4月13日～16日の降雨により、4月14日～17日の飛散数が増加しています（表1、4月17日現在）。

いずれの品種も開花前～開花後約2週間までは本病に対する感受性が高く、今後の降雨でも子のう胞子の飛散が続き、感染リスクが高まることが予想されます。降雨前防除を基本とし、開花直前および落花直後に効果の高いDMI剤（県病虫害防除指針参照）を十分量散布しましょう。

また、病虫害防除所では4月中下旬の花そう基部病斑の調査を実施中であり、いわき地方・須賀川地方において花そう基部病斑の初発が確認されました（図1）。芽基部病斑は、鱗片が脱落せず付着したままの花そうを発見の目安とし、見つけ次第除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

表1 ナシ黒星病の子のう胞子飛散状況
（果樹研究所、4/17 現在）

	胞子捕捉数	降水量
4/1	0	10.5
4/2	0	2.5
4/3	30	4.0
4/4	1	0.0
4/5		0.0
4/6		0.0
4/7	8	0.0
4/8		0.0
4/9	3	0.0
4/10		0.0
4/11	27	0.0
4/12		0.0
4/13		1.0
4/14	49	20.5
4/15	2160	3.5
4/16	497	5.5
4/17	917	0.0



図1 ナシ黒星病の花そう基部病斑（4/16、いわき市）

【リンゴ】

1 リンゴ黒星病

会津研究所における子とう胞子トラップ調査の結果、4月4日に子とう胞子の飛散が初確認されました（胞子捕捉数4個）。その後、4月13日～15日の降雨により、4月14日に22個、15日に8個、16日に14個とまとまった飛散が確認されました（4月16日現在）。

会津地域研究所において、2022年～2024年に子とう胞子の飛散消長を調査した結果、展葉期から落花20日後頃まで飛散があり、当該時期が重要防除時期であることが確認されています。

(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/680221.pdf>)

今後の降雨でも子とう胞子の飛散が続き、感染リスクが高まることが予想されますので、開花直前の防除は、前回の散布から間隔を空けないよう注意し、効果の高いDMI剤（県病害虫防除指針参照）またはカナメフロアブル4,000倍を十分量散布して被害防止に努めましょう。

2 リンゴ褐斑病

果樹研究所における子とう胞子の飛散は確認されていませんが（4月17日現在）、2024年の調査の結果、リンゴ褐斑病は開花期にも感染リスクがあることが確認されています。

(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/680220.pdf>)

前年、本病の発生が多かった園では、開花直前から防除を徹底しましょう。